

まちづくりの方向性	生活の質の向上と定住人口の確保
背景と現状	<p>「長寿の里」、「子育て・子育ての町」として、子どもから高齢者まで、誰もが、豊かな自然環境と生活環境の中で、健康で安心して暮らすことができ、さらに、住環境、子育て・子育て環境、教育環境を充実することにより、「生活の質」の向上を図ります。</p> <p>そのため、町民の知恵と努力がまちづくりに活かされるとともに、町民同士の協力と支え合いにより、地域コミュニティが息づくまちづくりを進めます。</p> <p>また、「生活の質」を向上させることにより、子育て世代を中心に定住人口の確保に努めます。</p>

※ 評価 「A：十分な成果があった」「B：一定の成果があった」「C：あまり成果がなかった」「D：成果が得られなかった」
 ※ 方向性 「継続推進」「一部改善」「抜本的見直し」

重点的方針	評価					
	R 1		R 2		R 3	
	評価	方向性	評価	方向性	評価	方向性（仮）
1-1 恵まれた自然環境の中での切れ目のない子育て支援	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進
1-2 学校と地域の連携による子どもたちの生きる力の育成	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進
1-3 住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けられる環境づくり	B	一部改善	B	継続推進	B	継続推進
1-4 人口減少社会でも活力あるコミュニティの形成	B	一部改善	B	継続推進	B	継続推進
1-5 「にのみやLife」の提案と発信による町の魅力の再発見	B	一部改善	B	継続推進	B	継続推進

※ 評価 「順調である」「概ね順調である」「一部順調ではない」「順調ではない」

内部評価（評価・理由等）	
概ね順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・1-1の施策においては、小児医療費の所得制限廃止など、安心して子育てを行うための環境づくりを推進した。今後は児童相談やヤングケアラー、発達支援など、多様化するニーズへの対応が必要である。 ・1-2の施策においては、ICT環境の整備や小中一貫教育を見据えた研究の推進、各学校のコミュニティ・スクールの運営など着実に成果をあげているため、目的達成に向けて継続して推進する。 ・1-3の施策においては、認知症サポーター養成講座の範囲の拡大を図ったことで一定の成果はあったが、引き続き独居や高齢者世帯の見守り体制の強化、社会情勢に合った支援制度や高齢者団体の在り方について検討が必要である。 ・1-4の施策においては、お互いさま推進協議会や町民サポートセンターなどを通じて地域コミュニティの醸成を図った。引き続き、地区の在り方の見直しなどは成果が出るまでに時間がかかるが、町民理解を得て進める努力が必要である。 ・1-5の施策においては、移住されて来た方たちの協力による移住相談会の開催などを通じ、「にのみやLife」を効果的に発信することができた。引き続き、成果を確認しながら、効果的な手法を選択し継続する。 ・政策全体として、各施策ともに一定の成果が得られているため、推進は概ね順調である。

外部評価（評価・主な意見等）

概ね順調である

- 小児医療費助成の所得制限廃止について条例改正がなされ、令和4年10月から適用された点は大変評価できる。一方で、多子家庭へのサポートについても検討を進める必要がある。
- 子供の教育環境について、小中一貫教育の導入による効果が見えてこない印象を受ける。一貫教育がなぜ二宮町らしい魅力ある教育環境づくりに繋がるのか、もう少し分かりやすくなるよう検討する必要がある。
- 英語・ICT教育については、生きる力、楽しく人生を過ごすための力を育むために特色のある教育を作り出す余地もあることから、そういった生きるためのリテラシー教育と位置づけて改めて拡大の方向に検討することも良いのではないか。
- コロナ禍で子育て支援や高齢者支援など、人とふれ合う事業の実施がまだまだ難しい状況ではあるが、十分な距離の確保やオンラインの活用等により、より多くの方に支援が届くよう工夫していただきたい。こうしたことで町民の満足度を高めることが、ひいては町のブランド力となり、移住者の増など地域活性化につながるものと考え。
- 施策評価における成果は認知症サポーター養成講座実施の1項目に対して、課題等が3項目。基礎評価の成果指標によればがん検診の受診率のみならず、後期高齢者健康診断受診率も50%以下であり、実効性が低い項目が多いことは課題である。
- 地区役員の担い手が不足しているのは、地域のコミュニティの力が衰えてきていることが要因である。生活の質の向上のためには地域の活性化が重要なので、この点についても積極的に取り組んだ方が良いと考え。
- 人口減少社会でも活力あるコミュニティ形成を実現するには、小中学校に対する事業が充実していることが望ましく、これらに対する庁内評価が本当に適正であるかどうか慎重に確認するべきである。また、環境衛生施設やスポーツ設備の充実も、環境・福祉・健康・保健の面で重要と考える。
- すべての事業で言えることだが、人口減少下で同サービスを維持するのは困難であることから、優先順位を定め、統合と集中が求められていると思う。学校教育においても、あまり広く美しい目標を掲げることは、教員の負担が増し現場に混乱を生じることになると考える。

政策評価シート（第5次二宮町総合計画・後期基本計画）

まちづくりの方向性	環境と風景が息づくまちづくり
背景と現状	<p>自然環境、歴史・文化を保全・育成し、都会に近い身近な自然環境と田舎の風景、穏やかな住環境を活かした観光を振興し、農業と漁業の振興を図ります。</p> <p>また、地域の素材を大切に商品づくり等による商工業振興や、高齢者世代や子育て世代のニーズに応えた商工業振興を進めます。</p> <p>さらに、町の特性を活かした農業、漁業、商工業と観光との有機的な連携と、町民との連携・協力により、町の活性化を図ります。</p>

※ 評価 「A：十分な成果があった」「B：一定の成果があった」「C：あまり成果がなかった」「D：成果が得られなかった」
 ※ 方向性 「継続推進」「一部改善」「抜本的見直し」

重点的方針	評価					
	R 1		R 2		R 3	
	評価	方向性	評価	方向性	評価	方向性（仮）
2-1 地域資源の保全と活用による新たな町の魅力の向上	B	継続推進	C	一部改善	B	継続推進
2-2 自然を身近に感じられる環境にやさしいまちづくりの推進	B	一部改善	B	継続推進	B	継続推進
2-3 二宮らしい産業の振興と雇用機会の創出	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進

※ 評価 「順調である」「概ね順調である」「一部順調ではない」「順調ではない」

内部評価（評価・理由等）	
概ね順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・2-1の施策においては、未だ新型コロナウイルス感染症の影響が続く状況下においても、延期や中止となっていた様々な文化事業を開催することができた。今後も状況に応じた展開を進める必要がある。 ・2-2の施策においては、環境啓発を重点的に進め、町のホームページの環境コーナー充実、就学前の子どもへの出前講座を実施し、環境について学ぶことのできる機会の提供を図った。 ・2-3の施策においては、有害鳥獣対策の推進により一定の効果が得られた一方、商工業においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものも多いことから、国の臨時交付金等を活用し、事業継続支援やプレミアム商品券事業を実施し、事業者等への支援を行った。 ・政策全体として、各施策ともに一定の成果が得られているため、推進は概ね順調である。

外部評価（評価・主な意見等）

概ね順調である

- 新たな町の魅力の向上や二宮らしい産業の振興に対する成果として、多くの事業がコロナ禍による影響で当初の思惑に沿った結果となっていない中で、一定の成果があったとするのは一定のレベルが低いのではないかと考える。
- 東大跡地を町の魅力を生むための財産であるなら、今よりも手入れを行き届かせて、もっと子どもたちが走り回って遊べるような場所とすれば、訪れる数も増えるのではないかと考える。町は所有する財産の活用について、もっと真剣に考えていくべきである。
- 少子高齢化やコロナ禍など環境が大きく変化している中で、環境啓発など現時点で考えられる施策を実行していると思われる。
- 葛川の水質改善を例に挙げると、改善要因には下水道整備による副次的な産物という面が存在しているが、他にもこのようなケースを考えればそれが観光資源になるのではないかと考える。
- 環境に配慮した、環境衛生施設の整備、スマート農業の推進、また近年開発の進む小型水力発電の適用などについても検討するべきである。
- まちづくりに関して「二宮らしさ」が出せていない印象を受けるので、地域住民を中心としたワークショップの開催などが必要である。
- 町の特産品としてオリーブを掲げているが、認知度はまだ低いことから、まずは町民に向け部局に捉われない事業展開をすることで、町全体でブランドを盛り上げる機運を醸成すると同時に、昔からの特産品である玉葱や落花生なども複合的にアピールを行い町のブランド力向上を目指すべきである。また、文化の面からも、音楽や映像作品などの充実により若い人たちへのアピールをしていく必要がある。
- 全体を通して、コロナ禍により予算事業が思わしくない状況を4区分で評価する施策評価の方法自体を見直すべきではないか。また、結果における「概ね順調である」の評価も、コロナ禍での予算に対して概ね順調であるが、本来の方針の実現には順調ではない旨を表現すべきと考える。

政策評価シート（第5次二宮町総合計画・後期基本計画）

まちづくりの方向性	交通環境と防災対策の向上
背景と現状	<p>便利でコンパクトな町という特性を活かして、町民にとって身近で利用しやすい公共施設の充実と、駅前広場や主要な道路の改良、公共交通の確保等により、交通環境の充実を図ります。</p> <p>また、喫緊の課題である大震災等の災害に備えるとともに、家庭、地域で町民同士の協力と支え合いによる減災文化が根付くまちづくりを進めます。</p>

※ 評価 「A：十分な成果があった」「B：一定の成果があった」「C：あまり成果がなかった」「D：成果が得られなかった」
 ※ 方向性 「継続推進」「一部改善」「抜本的見直し」

重点的方針	評価					
	R 1		R 2		R 3	
	評価	方向性	評価	方向性	評価	方向性（仮）
3-1 新庁舎整備による安全・安心な町の拠点づくり	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進
3-2 自然災害に対する防災・減災対策の充実	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進
3-3 都市基盤の強化と町民の交通環境の向上	A	継続推進	B	継続推進	B	継続推進

※ 評価 「順調である」「概ね順調である」「一部順調ではない」「順調ではない」

内部評価（評価・理由等）	
概ね順調である	<p>・3-1の施策においては、新庁舎・駅周辺公共施設再編計画を作成するとともに、未耐震の地域集会施設について耐震診断を実施し耐震化を図った。公共施設の再配置に関する施策は、まちづくりの根幹となるものであり、今後も町民理解を得て進める努力が必要である。</p> <p>・3-2の施策においては、防災・減災面で自助、共助、公助のバランスの取れた防災力の強化充実を図ることができた。また、消防業務においても、救急救助活動業務に注力して業務を達成し、かつ、新たに関係機関と連携し、高齢者の火災予防活動を推進した。</p> <p>・3-3の施策においては、町民の生活に直結する内容であり、日々、多くの声を頂く機会があるため、点検やパトロール等による計画的な対応等をより積極的に推進していくとともに、インフラの予防保全と、新たな交通施策の検討を進める必要がある。</p> <p>・政策全体として、各施策ともに一定の成果が得られているため、推進は概ね順調である。</p>
外部評価（評価・主な意見等）	
概ね順調である	<p>●まちづくりの第一歩として新庁舎整備による行政機能の集約化が急がれる。整備にあたっては、財源確保のため、民間企業との共同利用などによる建設・維持コストの低減策や、災害・有事の際などに適切な対応ができるように機能強化を行うこと。また、町民が利用するにあたって不便とならないよう、交通ハブを考慮したうえで平坦な場所への移転を検討するなど、庁舎整備の必要性とメリットを発信し町民の理解を得ながら着実に進めて行く必要がある。</p> <p>●将来発生が予想されている大地震などの自然災害の対応においては、町民への日頃からの防災意識の啓蒙と実際の防災訓練による基本的な防災動作の取得が必要である。しかしながら、防災訓練を行っても必ず多くの町民が参加するわけではないことから、町としてもどうすれば効果的に啓発できるか更に検討していくこと。</p> <p>●インフラの維持管理は重要であり、特に、小中学校通学路の安全性は特に重点的に注視する必要がある。</p>

政策評価シート（第5次二宮町総合計画・後期基本計画）

まちづくりの方向性	戦略的行政運営
背景と現状	<p>自治体財政が厳しい時代が続くものと予想されることから、計画的な行財政運営を進めます。</p> <p>時代状況の変化や町民の要請に応えられる行政を目指して、柔軟で機動的な自治体経営、スリムな行政、他の自治体との連携による広域行政、将来像を実現するための戦略的なまちづくり、広報公聴機能の充実を進めます。</p> <p>また、「自治体経営の力」を向上させるため、まちづくり行政を担う職員の育成を進めます。</p>

※ 評価 「A：十分な成果があった」「B：一定の成果があった」「C：あまり成果がなかった」「D：成果が得られなかった」
 ※ 方向性 「継続推進」「一部改善」「抜本的見直し」

重点的方針	評価					
	R 1		R 2		R 3	
	評価	方向性	評価	方向性	評価	方向性（仮）
4-1 効率的な行財政運営の推進	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進
4-2 町民とともにある自治体運営の推進と職員能力の向上	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進

※ 評価 「順調である」「概ね順調である」「一部順調ではない」「順調ではない」

内部評価（評価・理由等）	
概ね順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・4-1の施策においては、経常的経費と臨時的経費をしっかりと区分した上で、長期的な見通しを持って進める必要がある。 ・4-2の施策においては、個人情報に配慮しつつ、開かれた行政運営の確保を推進するとともに、人材育成を通じて職員の育成や業務の効率化による町民サービスの向上を図ったが、更なる時代に合った職員能力の向上やまちづくりへの町民参加の確保を図る必要がある。 ・政策全体として、各施策ともに一定の成果が得られているため、推進は概ね順調である。
外部評価（評価・主な意見等）	
概ね順調である	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化と税収の減少は避けられないが、同時に行政サービスも減っていくことになるはずなので、町民を中心としたまちづくりの視点を持ちながら、行政のダウンサイジングが適正に行われるようにする必要がある。 ● 重点的方針に関連する予算事業の多さに対し、目立った成果や課題がないことは、行政として何もできていないものと捉われかねない。各事業における成果指標の設定や基礎評価における事業の評価など、適切に事業が遂行されているのであれば、それがしっかりと分かるようにする必要がある。 ● メリハリをつけた行財政運営は良いが、教育支援や登校困難者の教育支援設備の充実など、教育に係る事業については、移住・定住の選択肢となることから、削減せず重点的に実施していくべきである。 ● 町民とともにある自治体運営の推進と職員能力の向上については、町民の自主的な活動を支援する目的を有することから、町民活動推進事業も位置付け、より多くの町民の参画を促すことを目指すべき。 ● 町の魅力を効果的に発信できるよう、職員の課題検出力やコミュニケーション力を含めた広報力の向上を目指し、技能研修などを効果的に実施する必要がある。